

令和元年度
建設界の担い手確保・育成に関する取り組み

令和元年度の活動事例紹介
【富山県部会】

R1.7.30-8.1

「第23回 SABO体験楽校」を開催！

がっ こう



砂防工事などを体験的に学ぶことにより、砂防事業に対する認識を深めてもらうことを目的として、富山県内の高校生が参加する「SABO体験楽校」を毎年開催しています。第23回となる今年の「SABO体験楽校」では、6名の高校生が工事現場での実体験や砂防事業に携わる人々との交流を通じて、学校の授業では得られない貴重な体験をしました。

開校期間：令和元年7月30日(火)～8月1日(木)【2泊3日】
 実施場所：立山砂防事務所、水谷出張所（立山カルデラ内）
 参加者：富山県立桜井高等学校 1名
 富山県立富山工業高等学校 5名 計6名
 主催：国土交通省 立山砂防事務所
 一般財団法人 富山・水・文化の財団



立山カルデラ砂防博物館見学



天運の湯清掃(協力:松嶋建設㈱)



コンクリート打設体験
(協力:丸新志鷹建設㈱)



ドローン操作体験(協力:鶴林土木)



土砂災害模型実験



無人化施工とICT施工体験
(協力:備岡部)



ロープ作業体験
(協力:新栄建設㈱)



生コンプラント見学
(協力:水谷生コンクリート事業(協))



枕木交換体験(協力:富山地铁建設㈱)



参加された生徒の感想

- 立山の事や現場での作業について学ぶことができました。
- 沢山の体験ができ、とても有意義な体験楽校となりました。
- この体験を今後の学校生活などで活かしていきたいです。
- 3日間という短い期間で貴重な体験が沢山できました。
- 今回学んだ事を活かして、これからの進路選択の参考にしたいです。

R1.7.3 『僕ら「さぼう」探検隊！』を開催 砂防堰堤とは？ ～立山町立釜ヶ淵小学校～



立山砂防事務所では、毎年6月から10月に県内の小学校を対象とし、常願寺川の災害・歴史や立山カルデラの砂防事業について、より理解を深めてもらう事を目的に、『僕ら「さぼう」探検隊！』と称し、「総合的な学習」を支援しています。

開催日：令和元年7月3日（水）10：00～11：50

場所：立山砂防事務所
立山カルデラ砂防博物館

参加者：立山町立釜ヶ淵小学校
6年生：10名 引率教諭：2名

※今回は、富山県立山土木事務所が行う
「こども砂防教室」の一環として開催されました。



土石流模型実験



土石流の特徴や非常時の備えを勉強しました！



砂防堰堤見学

常願寺川の立体地図を見ながら砂防と富山平野の関係を勉強！



土石流体感3Dシアター

砂防堰堤の役割や立山カルデラについて勉強！



トロッコに乗車
いってきま～す！

児童からお礼の言葉を
いただきました！



令和元年度「子供防災教室(立山カルデラ砂防勉強会)」の開催結果

○目的

- 安政5年(1858)の地震により、常願寺川上流の立山カルデラ内で4.1億立方メートルの大崩壊が発生し、その土砂が土石流となり下流の富山平野で140名の死者を出しました。
- 未だその半分の2億立方メートルがカルデラ内に堆積しており、今日の荒廃の原因になっています。常願寺川では大雨が降るたびに、富山平野に土砂を流す暴れ川となり、砂防事業は明治39年(1905)富山県で着手し、大正15年(1926)国の直轄事業に移され、現在も、富山平野を土砂災害から護るため、劣悪(不便、危険)な環境の中で、多くの人たちが働いています。
- 富山県では、「立山・黒部」の世界文化遺産登録を目指し、カルデラ内の立山砂防を中心に国際的な評価の検証・確立等に取り組んでおられます。
- 富山支部では、平成25年から、斜面防災の重要性を流域の小学生を対象に、直接カルデラ内での体験学習の場を企画し実施しており、今回は7回目となります。
- 常願寺川流域の小学生が、自分たちが生活している土地や、人の安全のために行われているカルデラ内での防災事業の砂防を勉強し、常願寺川の自然や砂防・治水などについて学び、斜面防災の大切さに関する教育の向上を目的としています。

○実施日

令和元年9月3日(火)天気:晴れ

○場所

立山カルデラ(富山市、立山町)現地

○参加者

立山町立利田小学校6年生

(生徒47名、教員2名、案内・随行者7名、合計56名)

○

主催:(一社)斜面防災対策技術協会富山支部

協力:富山県、国土交通省北陸地方整備局立山砂防事務所

○勉強会行程(小学校8時30分発～17時着)

利田小学校 発⇒立山カルデラ砂防博物館⇒立山砂防事務所出発(10時)トロッコ⇒水谷平(昼食)⇒白岩砂防堰堤(国指定重要文化財)⇒六九谷展望台⇒立山温泉跡地⇒跡津川断層⇒有峰記念館⇒利田小学校 着

白岩砂防堰堤(国指定重要文化財)



六九谷展望台



立山温泉跡地



「社会に学ぶ『14歳の挑戦』」



富山河川国道事務所

- 目的: 富山県では、中学2年生が5日間、学校外で職場体験活動や福祉・ボランティア活動等に参加する「社会に学ぶ『14歳の挑戦』」を実施している。
規範意識や社会性を高め、将来の自分の生き方を考えるなど、生涯にわたってたくましく生き抜く力を身に付けることが目的。
- 日時: 令和元年7月8日(月)～12日(金)
- 場所: 富山河川国道事務所(有沢出張所、富山国道維持出張所)、北陸技術事務所富山出張所
- 参加者: 富山市立堀川中学校(生徒: 男子1名、女子1名)2名



事業概要説明



災害対策車の設営体験



堤防除草作業の見学



スランプ試験体験



橋梁点検体験



道路巡回体験



体験報告会

＜生徒の感想＞

- ・やる時はやり、休むときは休む、メリハリをつけて生活することを今後の学校生活で取り入れたい。
- ・川にある樋門がなぜあるのか知ることができた。
- ・橋の点検は細かい作業で、とても大変だった。

建設業における担い手確保・育成に向けた取り組み

(社会資本の役割や建設産業の魅力のPR)

県政バス「富山どぼく発見！ツアー」(H20～)

- ・令和元年8月6日(火)実施 20名参加(子供11名、保護者9名)
 - ・小学生以上18歳以下の子供とその保護者等を対象
 - ・県内の土木施設や施工現場などを見学
- (主な内容) ・富山駅南周辺整備、富山きとときと空港 等)
・富山テレビ放送「元気とやま みんなのクイズ」に回答者として参加



富山駅



富山きとときと空港

富山県立大学「ダ・ヴィンチ祭」へ建設業ブース出展(H28～)

- ・令和元年8月3日(土)実施 184名受付(高校生以下102名、一般82名)
 - ・建設業協会、建設コンサルタント協会、測量設計業協会と連携して実施
 - ・建設業のイメージアップ、将来の担い手確保のため、楽しみながら建設技術を体験
- (主な内容)
・ドローンの飛行実演 ・測量体験 ・VR(バーチャルリアリティ)建設現場体験
・ラジコン重機の遠隔操作 ・ペーパーブリッジの製作 ・重機のシュミレータ操作体験



重機シュミレータ



ペーパーブリッジ

「ミル・シル・マナブとやまの土木・建築見学会」(H29～)

- ・令和元年9月30日(月)実施 20名参加(学生15名、教員5名)
 - ・富山県立大学及び富山大学と連携し、将来の土木技術者をめざす両大学の学生及び教員を対象とした見学会を開催
- (主な内容)
・ラウンドアバウト：陽南環状交差点(上市町)
・雑穀谷13号堰堤工工事(富山県) ・桂台第2ロックシェッド工工事(道路公社)



ラウンドアバウト



雑穀谷13号堰堤工

「建設のプロに会いに行こう！高校生のための現場見学ツアー」(R1)

- ・令和元年8月6日(火)実施 3名参加(高校生3名)
 - ・工事の現場のみならず、インフラ造りを支える「資材の製造」や「構造物の設計」など、幅広く建設産業の工程を訪ねるインフラツアーを開催
 - ・県内の高校生に直接配布される仕事情報誌にインフラツアーレポートを掲載し、広く建設業の魅力を発信する予定(令和2年2月発行予定)
- (主な内容) ・橋梁の設計現場 ・生コンクリートの製造現場 ・鉄筋用棒鋼の製造工場
・コンクリート二次製品工場 ・橋梁の架設現場



県道高岡環状線
橋梁架設工事

建設業における担い手確保・育成に向けた取り組み

(将来の建設業を担う人材の入職・定着・育成)

将来の建設業を担う人材の入職・定着・育成

○女性が活躍できる労働条件改善補助事業

建設企業等が行う、最新型の作業服等(空調付き作業服・ヘルメット等)の購入、労働条件改善のための社内規定の整備(育児・介護休業制度の導入等)など、女性も働きやすい職場になるような労働環境改善の取り組みへの支援を実施(H27～)

【R1申請】
 ・トイレの改修 2社
 ・最新型作業服の導入 2社
 ・社内規定の整備 1社



空調付き作業服

○建設業若者活躍支援事業

事業者団体が行う、若年層の入職・定着・育成の取り組みへの支援を実施(H30～)

- ・資格取得支援講座 <対象>在職者
土木・建築施工管理技術検定試験の短期集中対策講座の開催
- ・就職直前技能向上研修 <対象>高校生
玉掛け及び小型移動式クレーン運転技能講習の開催
- ・新入社員向け研修 <対象>新入社員
技術力向上や離職防止を図るための研修の開催



女性活躍推進のパンフレット

○「もっと女性が活躍できる建設業」支援事業

内閣府の「地域女性活躍推進交付金」を活用し、建設業における女性活躍推進を図るため、女子学生による現場見学会・座談会や経営陣を対象とした研修会を開催(H30～)

建設業以外の新分野への進出に取り組む建設企業に対する支援

○建設業新分野進出等支援補助事業

経営基盤の強化に向け、プラン策定、事業立ち上げ、事業定着に要する費用を助成し、建設企業の新分野進出を支援(H18～)

【R1申請】 3社



木製品の企画・製作・販売



完全人工光型植物工場

富山大女子学生 工事現場を見学

技術者の仕事に理解



富山大都市・交通
デザイン学科の女子

学生を対象にした工事現場見学会が1日、富山市葛原(大沢野)で開かれ、参加した16人が女性技術者の仕事や建設業に理解を深めた。

県内建設企業への女性の就職を促進しようと、県建設業協会が企画。見学した現場では、昨年7月の豪雨で被災した神通川左岸で堤防強化と護岸工事が進んでいる。射水建設興業(高岡)の監理技術者、金塚歩美さんに女性用トイレを案内してもらった後、女子学生は

金塚さん(手前左)から説明を受ける女子学生



衛星利用測位システム(GPS)を用いた建設機械の操作を見学し、測量やくい打ちを体験した。

1年生の酒谷架音さん(19)は「建設業のイメージが変わった。進路はまだ未定だが、参考になった」と話していた。

建設業への理解促進図る

女子学生対象の現場見学会

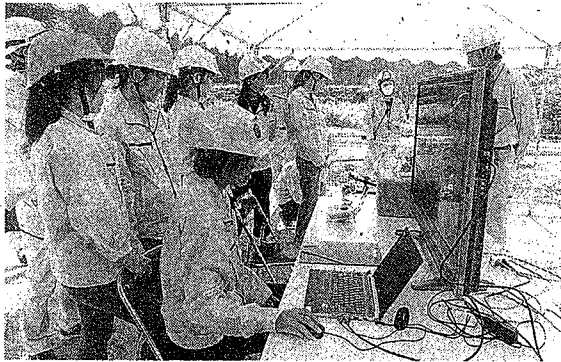
県建設業協会

富山県建設業協会は、1日、富山大学の女子学生を対象とした、建設現場見学会を開いた。県内3カ所の現場

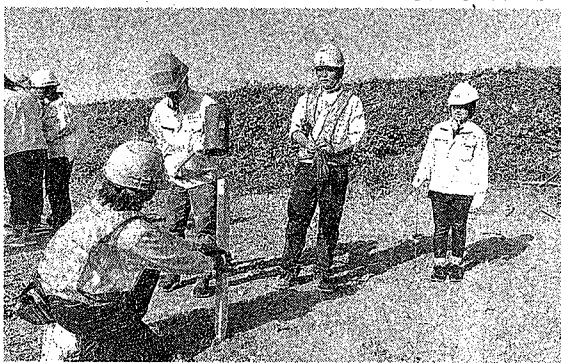
を見て回り、建設業に理解を深めた。

県内建設企業への入職や定着を促進するため、現場での女性技術者の活躍を見て、進路選択の参考にしてもら

う狙い。県の委託事業（もっと女性が活躍できる建設業支援事業）



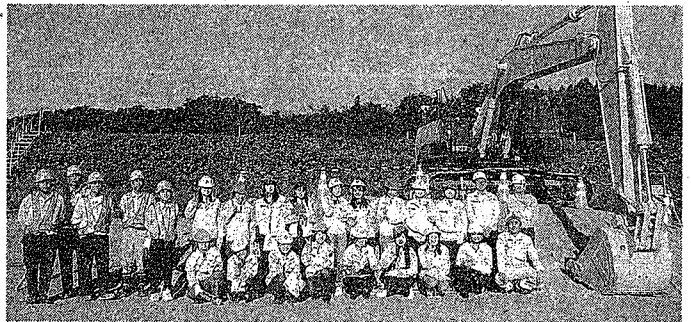
3次元測量を学ぶ様子①とくい打ちを体験する学生



として開くもの。

この日は、都市デザイン学部の1、2年生約20人が参加。県発注の「富山県立大学新棟新築等工事」、「主要地方道富山立山公園線藤木高架橋上部工事」と、北陸地方整備局富山河川国道事務所が発注した「神通川・葛原地区堤防強化及び河道内整備工事」の現場を順に見て回った。

このうち、葛原地区堤防強化及び河道内整備工事の現場では、はじめに富山河川国道事務所の谷口和哉工事品質管理官が事業概要を説明。引き続き、同工



参加者による集合写真

専用の快適トイレなども見学した。

質疑では、金塚氏が待遇や資格について「男女の差はない。待遇も徐々に良くなってきている」と話し、家庭と仕事の両立については「他の業種で働く

事を担当する射水建設興業の監理技術者である金塚歩美氏が、女性技術者の役割や1日のスケジュールなど働き方をアドバイス。そのほか、現場体験実習としてMCバックホウに乗車したり、3次元測量、丁張・くい打ちも体験した。また、女性

「操作が難しかった。就職先に土木は考えていなかったが、IT化が進んでいてイメージと全然違った。女性でも差がなく働けそう」と感想を話した。

女子大生が測量

富山、射水 建設現場を見学

県建設業協会は1日、富山、射水市で女子大生を対象とした建設現場見学会を開き、富山市デザイン学部1、2年の16人が建設業界に理解を深めた。

学生は各現場の様子を見て回り、現場で活躍する女性社員に仕事のやりがいや職場環境について話を聞いた。富山市葛原の河川工事の現場では、測量の機器を使ったり、くいを打つ作業を体験したりした。

測量作業を体験する学生

富山市葛原



令和元年度
建設界の担い手確保・育成に関する取り組み

令和元年度の活動事例紹介
【石川県部会】

令和元年7月22日(月)、(一社)日本建設業連合会北陸支部は、金沢大学から一年生35名の参加を頂き、①H29-32金沢東環月浦トンネル工事(北陸地整金沢河川国道事務所)、②北陸新幹線 梯川橋りょう他(独立行政法人 鉄道建設・運輸施設整備支援機構 大阪支社)の現場見学会を開催しました。

今回の見学会は、**日建連による「担い手の確保・育成」活動の一環として、建設現場のやりがい・魅力の発信、実際の作業環境を肌で感じ、現場職員との会話を通じての建設現場で働くイメージの形成**を目的として開催しました。

トンネル工事では、大学に近いエリアで施工中の山岳トンネル工事の切羽まで行く事が出来、大型重機やNATM工法で掘り進められた巨大な支保工の内部空間に立ち入って詳しく説明を受けたことから、「**真夏なのに換気設備が良くて意外だった**」、「**普段見れない段階の工事状況を見れて理解が深まった**」などの声がありました。

橋梁上部工工事では、PC片持箱桁橋の施工を目の当たりにし、やじろべえのように左右に徐々に出来ていく事への理解を深め、近年の建設労働者不足対応としての**外国人労働者を受け入れるJVの取組**(安全に対する外国語での教育DVD作成など)や**熱中症対策**として行っている休憩所をかき氷配布を学生にも振る舞ってもらう等して、「**現場で想像以上に様々な取組を行っていることへの理解が深まった**」との声もあり、**担い手確保に向けての良いPRの場**となりました。

現場見学会

①「H29-32金沢東環月浦トンネル工事(北陸地整金沢河川国道事務所)

②北陸新幹線 梯川橋りょう他(独立行政法人 鉄道建設・運輸施設整備支援機構 大阪支社)



工業系高校・大学・専門学生との現場見学会

(一社)石川県建設業協会

6月27日(木) 金沢市立工業高等学校	建築科	3年	42名	東京国立近代美術館工芸館 他2箇所
7月 5日(金) 石川県立羽咋工業高等学校	建設造形科 建築コース	3年	16名	鼠多門、金沢港クルーズターミナル
7月 5日(金) 石川県立羽咋工業高等学校	建設造形科 土木コース	3年	17名	加賀拡幅桑原舗装他工事 他1箇所
7月 9日(火) 金沢市立工業高等学校	土木科	1年	42名	大浦千木町線道路築造工事、能越道
7月10日(水) 石川県立小松工業高等学校	建設科	1年	42名	月浦トンネル、小松駅新幹線工事 他1箇所
7月16日(火) 石川県立翠星高等学校	総合グリーン科学科	3年	22名	別宮町地内県営ほ場整備、梯川
9月20日(金) 金沢工業大学	環境土木工学科	1年生～院生	23名	白山白峰砂防堰堤
				参加計 5校7学科 参加者数計 204名



金沢市立工業高校 土木科
(能越道 輪島国道出張所)



石川県立小松工業高校 建設科
(小松駅新幹線工事 奥村組・加賀建設・江口組JV)



金沢工業大学 環境土木工学科
(白峰砂防堰堤 白峰砂防出張所)

現場見学会での生徒の感想例

- 自分の進路に実感を持つことができた。
- 現場でのコミュニケーションの大切さを感じた。
- 将来の仕事について視野が広がった。

今後に向けて

将来の担い手確保に向け、今後も各学校と協議し、見学活動を継続して実施する。また、建設業における女性の活躍が今後大変重要なことから、女子学生向けの見学会や意見交換会等の活動を引き続き行っていく。

工業系高校との意見交換会

(一社) 石川県建設業協会

11月15日(金)予定	金沢市立工業高等学校	建築科	2年	40名	
12月13日(金)予定	石川県立羽咋工業高等学校	建設造形科	1年	30名	
12月13日(金)予定	石川県立羽咋工業高等学校	建設造形科	2年	30名	
12月13日(金)予定	金沢市立工業高等学校	土木科	2年	40名	
12月17日(火)予定	石川県立小松工業高等学校	建設科	2年	40名	
令和2年2月予定	石川県立翠星高等学校	環境科学コース	2年	30名	
参加生徒計					約210名



意見交換会について

- 工業高校との意見交換会は主に、前半は若手職員（同校OB等）が自身の1日・体験等をプレゼンまたは、ICTなどの最新技術の紹介・説明に加えて実機での操作体験。後半は協会会員企業所属の若手職員を中心としたグループ形式にて行った。
- 生徒からは、比較的年齢が近くて、同校の先輩職員だと意見交換での質問もしやすく、意見交換会を通じて生徒自身の近い将来像を想像することができ、貴重な機会を得ることができた。

【建コン協北陸支部の技術部会活動】

金沢工業大学で建設コンサルタントの仕事について説明しました！

実施日：令和元年6月6日（木）

開催場所：金沢工業大学

参加者数：環境土木工学科の3年生 72名

説明者：（一社）建設コンサルタンツ協会北陸支部

技術部会 トンネル委員会委員長 今度 充之
道路委員会委員 藤本 勇一

72名もの学生が参加してくれました。

説明者の自己紹介の後、パンフレット「建コンPRIDE」に沿ってパワーポイントで説明し、さらに説明者の経験業務などについても話しました。

アンケートの回答から、今回の説明の前から建設コンサルタントのことを知っていた学生は以前よりも多くなっているようですが、今回の説明によって業務の内容やコンサルタントの立場などについて、より理解が深まり興味を持ってもらったことが分かりました。

沢山の学生がコンサルタントを目指してくれることを期待しています。

この機会を与えていただいた徳永教授に深く感謝しています。



【担い手確保】石の標本づくり in 白山手取川ジオパーク

(一社)石川県地質調査業協会

- 地質を調査する仕事があるということを知ってもらうために、まずは身近な「石」に興味をもってもらうよう、10月5日(土)に白山市、金沢市の小学4年生以上の親子を対象に、石の標本づくりイベントを開催。
- 石の専門家から説明を受けて「石」の成り立ちや種類などについて知ってもらう。

開催概要

令和元年10月5日(土) 10:00~12:00

〈開催場所〉

手取川の河原(道の駅しらやまさん)

〈参加者〉28組58名(小学生30名、保護者28名)

イベントの感想

現在、アンケートの集計中であるが、速報としては下記の意見があった。

- 短い時間だったけれど、たくさん石を見つけられた。
- 石の色々な種類が知れたし、色などの違いも面白かった。
- 石にもいろんな歴史があって面白い。
- 家に持っている石も見てもらいたい。

今後に向けて

• 将来的には能登地区や、南加賀地区での開催も検討し、広く子供達に石や地質について興味をもってもらい、担い手確保に努めていきたい。



ゆきママと一緒に



河原で石探し



教授にいろいろ訊いてみた



薬液を使った石の判定

【担い手確保】 建設業の魅力を伝える体験学習

石川県立小松工業高等学校

地元建設業協会の協力により、建設業担い手確保・育成事業の一環として、「ものづくりの喜びや達成感が味わえる」といった建設業の魅力を伝えると共に、高校生の建設業に対する疑問に答えるために平成26年度から行っている。

本年度は、建設業において土木と建築の違いはどこにあるのか、どんな仕事があるのか体験学習を交えて、建設科の道を歩み始めた1年生を対象に、建設業に対する理解や関心を高めると共に、多くの生徒が建設業に携わる気概となることを目指して開催された。

開催概要

令和元年7月4日(木) 9:00

場所 石川県小松工業高等学校

計画設備室 CAD室 製図室 水理実験室 木工室

学習内容

- ・講演 『土木と建築の違い』
- ・体験学習(20分×4グループ)
 - ①【消波実験】 テトラポットの模型を積み上げて波消実験
 - ②【カンナ削り】 杉、桧、松 木の香りを体験
 - ③【建設機械】 ドローン 建設機械 操作
 - ④【航空写真】 構造物の写真から土木建築を分ける作業
- ・事前学習(5日後の現場見学での見どころ紹介)
 公立小松大学末広キャンパス校舎整備工事、小松駅 新幹線工事

消波実験



きれいに、きれいに どんどん積んで 波を作って消波実験



カンナ削り

説明をよく聞いて 実践、できるかな 削れた、いい香り!

建設機械



建設機械の種類 機械ごとに役割がある 慎重に操縦して



航空写真

空から見ると 工事の進み具合がわかる 自分の知っている場所は?



「建築と土木の違い」

参加企業15社
建設科1年生40名

令和元年7月4日

協会の皆様ありがとうございました。
 楽しく、建築と土木の違いが学べました。
 この貴重な体験を活かし「人間にしかできない」
 小さなことにも一生懸命に仕事に取り組み、
 地域に貢献できる人になるよう頑張ります。



○出前講座

- ・高校生（普通高校も含む）を対象とする職業講話等の実施
（H30：11校 約1,000名が参加）

《今年度実施済み》

6月 翠星高校（パネルディスカッション）

9月 寺井高校（現場見学） など

○高校生インフラツーリズム（夏）

- ・県内高校生を対象に実施

8/2 能登コース 輪島道路、測量機器体験等

8/8 加賀コース 月浦トンネル、測量機器体験等

○一般向け建設業PRイベント

5/12 歩いてみよう「のと里山海道」

10/14 「はだしの王国2019」 ほか

○中学生向けPRパンフレット

- ・PRパンフレットを建設業協会と協力し作成。
県内の全中学校に配布



令和元年度
建設界の担い手確保・育成に関する取り組み

令和元年度の活動事例紹介
【けんせつフェア in 富山 2019 開催報告】

けんせつフェア北陸in富山2019の開催結果について

20191007_幹部会会議資料_企画部(1)_1年

北陸地方整備局

- ◆10月2日（水）3日（木）に、「けんせつフェア北陸in富山2019」を開催しました。
来場者約4,600人を迎え、多くの建設技術者に情報交換の場を提供。
- ◆官公庁、大学、企業団体、個人企業による151社、355技術を展示
大学4校、企業団体74社、個人企業59社（北海道、兵庫からも出展）
- ◆“グルッと体験「ICT」” ICT特設展示
「▶3次元測量、▶3次元データ作成、▶ICT建機施工、▶3次元出来形管理」を屋外会場でぐるっと体験。
- ◆学生招待、合同企業セミナー
富山県、石川県内の大学、高校生、専門学校から13校約740人を招待。
うち今後の担い手となる学生に対して富山県内企業の情報発信等セミナーに約340人参加。
- ◆展示技術プレゼンテーション47社



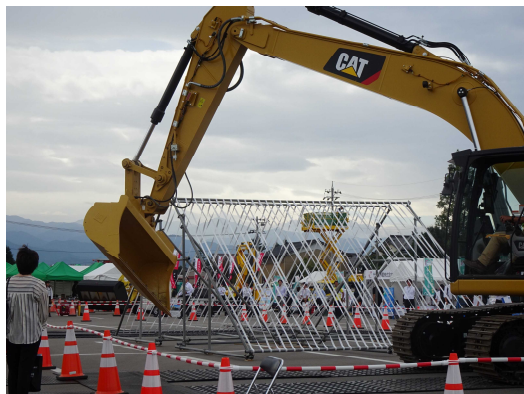
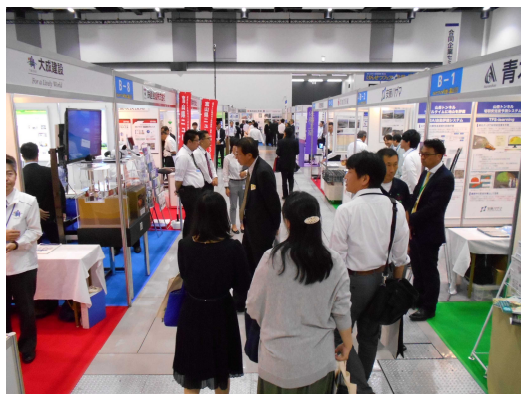
屋内展示会場



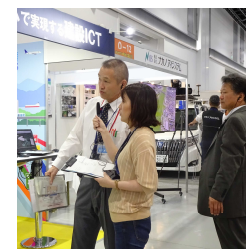
屋外展示会場



企業セミナー



- 10/1(夕方)、10/2(朝) NHK富山
- 10/2 18:24 チューリップテレビ
- 10/3 富山新聞
- 10/3 建設通信新聞
- 10/3 日刊建設新報
- 10/3 建設工業新聞
- 10/3 日刊建設工業新聞
- 10/3 13:25~20分(生中継) 富山シティエフエム→



2019/10/2

最新の建設技術 一堂に
 局名 チューリップ
 番組名 チューリップテレビニュース「N6」
 日時 令和元年10月2日(水) 18:24

掲載新聞社	富山新聞	掲載年月日	令和1年10月3日(木)
掲載面	22面	掲載分類	県内統合



(ナレーション)
 産・学・官の優れた建設技術を一堂に集めた「けんせつフェア」が富山市で初めて開催されています。



(ナレーション)
 この「けんせつフェア」は、国土交通省北陸地方整備局などが建設分野の最新技術を共有するとともに、業界の担い手確保を目指して開いているものです。



(ナレーション)
 会場には、県内外の企業93社が最新技術を紹介するブースなどを出展し、屋外スペースでは、ICT技術を活用した油圧ショベルを実演体験できるコーナーも設けられています。



(ナレーション)
 「けんせつフェア」は3日まで、富山テクノホールで開かれています。

「けんせつフェア北陸in富山2019」(富山新聞社後援)は2日、富山市の富山産業展示館で2日間の日程で始まった。富山や石川、新潟の産官学の151団体が最新の建設技術や工法を紹介し、建設関係者らが情報交換した。

「安全・安心」「自然・文化」「連携・活力」の3テーマで、355点が出展された。

けんせつフェア 富山で初開催

151団体が355技術出展

屋外では、ICT(情報通信技術)を活用した重機のコントロール、測量などの特設展示、ドローンのデモンストラーションが繰り広げられた。学生向けの企業セミナーなどもあった。

フェアは1993(平成5)年から隔年で開かれており、富山での開催は初めて。開会式ではフェア実行委員長の内藤正彦北陸地方整備局企画部長が開会宣言し、北陸地方建設事業推進協議会長の吉岡幹夫同局長があいさつした。



屋外展示に見入る来場者
 富山市の富山産業展示館

新聞社名	建設通信新聞	年月日	令和 元年10月 3日(木)
掲載面	7面		

新聞社名	日刊建設新報	年月日	令和 元年10月 3日(木)
掲載面	4面		

「けんせつフェア北陸 in 富山」が開幕

151者が355技術出展

産・官・学の優れた建設技術なる今回は、151者が355技術を一堂に集めて紹介する。5技術を出展。「次世代へ、



「けんせつフェア北陸 in 富山2019」みて、ふれて、設技術」をキャッチフレーズに、i-constructionなどの最新技術を紹介し、富山市の富山産業展示館で開幕した。富山県で初開催と

成果などを共有し、さらなる技術開発と担い手の確保・育成につながるのを狙い。オープンングセレモニーで実行委員長の内藤正彦北陸地方整備局長が開会宣言も実施する。そのほか、地元企業が学生へ情報発信する合同企業セミナーや、最新の技術動向を伝える建設技術報告会も開かれ、立つと確信している。どのよ

富山県立短期大学 富山カレッジ
富山県立短期大学 富山カレッジ
富山県立短期大学 富山カレッジ
富山県立短期大学 富山カレッジ
富山県立短期大学 富山カレッジ
富山県立短期大学 富山カレッジ
富山県立短期大学 富山カレッジ
富山県立短期大学 富山カレッジ
富山県立短期大学 富山カレッジ
富山県立短期大学 富山カレッジ

富山県立短期大学 富山カレッジ
富山県立短期大学 富山カレッジ
富山県立短期大学 富山カレッジ
富山県立短期大学 富山カレッジ
富山県立短期大学 富山カレッジ
富山県立短期大学 富山カレッジ
富山県立短期大学 富山カレッジ
富山県立短期大学 富山カレッジ
富山県立短期大学 富山カレッジ
富山県立短期大学 富山カレッジ

「けんせつフェア」にブース出展 先進のICT建機など展示・実演

千代田機械 販売の「けんせつフェア」にブース出展。先進のICT建機など展示・実演。ICT建機は、作業効率の向上や、安全性の向上、省力化などを目的とした。ICT建機は、作業効率の向上や、安全性の向上、省力化などを目的とした。ICT建機は、作業効率の向上や、安全性の向上、省力化などを目的とした。



けんせつフェア北陸 in 富山で初開催

151者が出展、355技術を紹介します。最新の建設技術の中心を紹介する「けんせつフェア北陸 in 富山2019」が、富山市の富山産業展示館で開幕した。

会場では「安全・安心」「自然・文化」「連携・活力」の3テーマで各技術を展示しているほか、2日間で47者が展示技術を解説するプレゼンテーションも実施する。

活カある地域づくり、担い手確保へ。富山県は、国土交通省と連携し、地域の活性化や、担い手の確保を目的として、けんせつフェアを開催する。けんせつフェアは、最新の建設技術を紹介する。けんせつフェアは、最新の建設技術を紹介する。



富山県立短期大学 富山カレッジ
富山県立短期大学 富山カレッジ
富山県立短期大学 富山カレッジ
富山県立短期大学 富山カレッジ
富山県立短期大学 富山カレッジ
富山県立短期大学 富山カレッジ
富山県立短期大学 富山カレッジ
富山県立短期大学 富山カレッジ
富山県立短期大学 富山カレッジ
富山県立短期大学 富山カレッジ



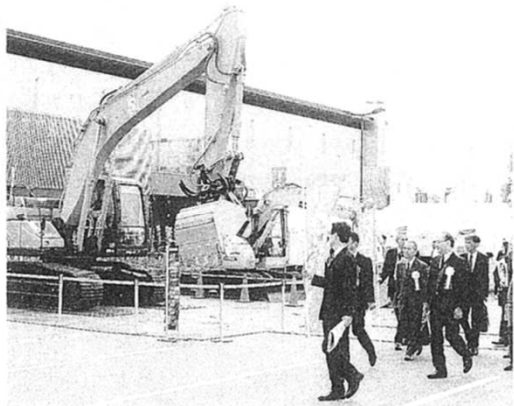
富山県立短期大学 富山カレッジ
富山県立短期大学 富山カレッジ
富山県立短期大学 富山カレッジ
富山県立短期大学 富山カレッジ
富山県立短期大学 富山カレッジ
富山県立短期大学 富山カレッジ
富山県立短期大学 富山カレッジ
富山県立短期大学 富山カレッジ
富山県立短期大学 富山カレッジ
富山県立短期大学 富山カレッジ

新聞社名	建設工業新聞	年月日	令和 元年10月 3日(木)
掲載面	4面		

新聞社名	日刊建設工業新聞
掲載面	10面



関係者によるテープカットと屋外に設けられたICT特設展示場



新技術・工法が一堂に

けんせつフェア北陸始まる 富山で初開催

産学官の優れた建設技術を一堂に集めた「けんせつフェア北陸in富山2019」が2日、富山産業展示館(テクノホール)で始まった。大勢が

来場し最新の技術・工法を見て、触れて、認識を深める機会となった。富山県内では初めて、3日まで開催される。今回のテーマは「次世

代へ、イノベーションをもたらす建設技術」で、151企業・団体355件の新技術・工法が展示された。屋外には体験型のICT特設展示場も設置。ICT建設機械の実演や体験乗車などを通して「i-Construction 貫徹の者を見込んでいる。

会場内では、新たに研究開発された新技術などを紹介する「建設技術報告会」も同時開催。「環境の保全と創造」「雪に強い地域づくり」「自然災害からの安全確保」などをテーマに技術報告が行われたほか、国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構第一宇宙技術部門技術領域主幹の富井直弥氏による「宇宙からのインフラ調査点検」と題した基調講演もあった。

野高校から約340人が参加者を含むフェア見学者は1加する予定。セミナー参加000人を超える予定。

本建設業連合会(日建連)北陸支部などで組織する実行委員会(委員長・内藤正彦北陸整備局企画部長)主催の建設技術の総合展示会「けんせつフェア北陸in富山2019」が2日、富山市の産業展示館を会場に開幕した。富山県でのけんせつフェア開催は初めてで、会期は3日まで。

今回のキャッチフレーズ「長があいさつした。は「次世代へ、イノベーションをもたらす建設技術」は、国土交通省は9月19日オープンセレモニーで、年度を建設現場の生産性向上策「i-Construction」の真散年位置付

「一会場には現場の生産性向上に役立つICT(情報通信技術)や、インフラ点検省力化、北陸ならではの克重関係の技術が多数展

「生徒向けの合同企業セミナーも行うことも伝えた。来賓の森戸義貴国交副総合政策局公共事業企画調整

この後、吉岡局長、森戸課長、芦田散也日建連北陸支部長、海野正美日本建路建設業協会北陸支部長、竹

内茂富山県建設業協会会長らがテープカットを行い、フェアには151の団体企業が参加。17年度の前回を約1割上回る355の新技術・新工法が展示されている。自社技術や工法をアピールするプレゼンテーションには47者が参加する。学生と生徒向けの合同企業セミナーには、富山大学、富山県立大学、富山県立桜井高校、同富山工業高校、同富山工業高校、同富山工業高校、同富山工業高校、同富山工業高校

